明治三十一年三月十八日印刷
明治三十一年三月二十日發行

婦人衛生雜誌

第百號

私立
大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

大日本婦人衛生雜誌
第百號
目次

講演
◉人乳の改良　衛生試驗所技手　丸山長四郎君
衛生叢談
◉急性胃加多兒の時の心得
◉小便に就きて
◉大日本婦人衛生會景況
◉廣告數件

大日本婦人衛生雜誌
第九拾九號
目次

講演
◉家庭敎育衛生　醫學博士　三宅秀君
衛生叢談
◉人工浴法
○寒水浴　○冷水浴
○微温浴　○温浴
○熱湯浴　○全身浴
○半身浴　○座浴
○脚浴　○局部浴
○擦浴　○海水浴
○芥子浴　○曹達浴
○石鹼浴
◉輕症の手當
○眼病
○耳病
○濕疹
◉大日本婦人衛生會記事
◉新潟支會記事
◉廣告數件

婦人衛生雜誌第百號
（明治三十一年三月二十日發行）

講演

人乳の改良

衛生試驗所技手 丸山長四郎君演説

私は今日乳の事に就て御話を致しませうと思ひます、全躰私の演題は「乳の話」と云ふので、其事は先日丹波君まで申上げて置きました、然るに茲には「人乳の改良」となッて居る、是れは違ッて居りますが、併し別に直はしませぬから、どうか「乳の話」と云ふ題であると御承知を願ひます。デ乳の話に入る前に、鳥渡人の食物に就て一二の御話をするのが順序で有らうと思ひます。

今日我々の食物として取りますものには動物性の物と植物性の物との二種類が御座います、此動物性のものと植物性のものとの効能を手短く申して見ますれば、動物性のものは躰質を養ひ、植物性のものは躰温を造るに要用なると、此二つに外ならないので御座います、此体質を養ひまするに必要なる原素は窒素と云ひ、又無機鹽と申します無機鹽は骨などを組織する處のものであります、又躰温を造るに要用なる原素は炭素といふもの、輙ち澱粉或は砂糖の如きものでございます。我々の日々に取りまする食物は此二ッの物を好い對稱で取らなければならない、好い對照と云ふのは少し學理に渉りますが、碩學者ホイトの實驗に依れば窒素一と炭素十八とが宜いと云ふことです、又勞働者の平均食物は蛋白質百十八ガラム、脂肪五十

六ガラム、含水炭素五百ガラムが適當であると申して居ります。よく世人が一口に歐米の人は肉食で、東洋の人は米食だと申しますけれども、併し歐米の人とても必ず肉ばかりでは有りません、麵麭其外植物性の食物をも食べます又東洋の人も決して米飯のみではなく、獸肉魚肉等の肉食をも致します。畢竟完全なる食物とは、動物性のものと植物性のものとを適宜に併はせたものを申すので有ります、一ッに偏ッてはどうしても我々の身体を健康に保つことは出來ませぬ動物性の食物にはどう云ふものが有りますかと申せば則ち蛋白、脂肪に富みたるもの、又植物性の食物には澱粉或は砂糖を多く含んで居るもので有ります。此二種類の物を適宜に含んで居る食物は何であるかと云ふに乳を取り除けましては他には御座いませぬ、いづれも皆一方に偏して居りますから、つまり良き食物を得んとするには兩方を併はせ食べなければならない。然るに乳なるものは此二ッの物を好い對稱で含んで居ります、殊に人乳は抜で、良いやうで御座います。而して此食物の中でも、蛋白脂肪を充分に含んで居るものは、滋養に富んで居るといッて大へんに宜いやうですが、併しながら只蛋白脂肪の量が多いと云ふのみを以て、一概に此食物は良いと云ふとは出來ませぬ。畢竟蛋白質の量の中で、食しまして、身体に吸收さるゝ量が多くなければなりませぬ、然るに乳は大へんにからだに吸收さるゝ養分を多く含んで居る。例へば牛乳の中に含んで居る蛋白質は九割以上、脂肪は九割半以上、鹽類は五割程からだに吸收されます。人乳は牛乳よりも過ぐれて良いと云ふことで御座

いますが、其割合は未だ私は調べませぬから申上ぐることは出來ませぬ。蛋白質は人体に吸收される量の多いのが良いと申しましたが、是れはどうして試驗をするかと云ふに、我々が化學的分拆をするには、先づ一つの食物を取ッて、其中に含める窒素の量をはかり、而して蛋白質の量を割り出します。さて之を人躰に試みるには、他の食物は食べさせないで、試驗をしまする處の食物のみを取らせ、少しく尾閭に渉りますが、一定の時間を經て後に下より出でました排泄物を取ッて復其中の窒素を驗し、蛋白質に直して、其量を初めに試驗して出でたる量より引きますると、體中に蛋白質がいくら止まッたと云ふことが解ります、斯くの如くにして蛋白質の身躰に吸收さるゝ量を知ります。其他にも之を試驗する方法は種々有りますが、就中簡單なるは右に述べたる方法であります。デ先づ食物の御話はこれに止めまして、本題の乳の御話に移らうと思ひます。

小兒を養ひまするには申すまでもなく乳を以てするのですが、其乳の中でどう云ふ乳が一番好いかと云ふことを申上げ樣と思ひます。小兒を養ふには勿論生んだ母の乳に越すものは無い樣に思ひます。御承知の通り乳と云ふものは小兒の成長に從ひまして、丁度其兒を養育しまするに適當なる濃さになッて參りまする、是れは造物主の配劑に在ることで、到底人力には出來ないことで御座います。併しながら其生んだ母が不健康なるか、若くは乳質が惡るいとか、其他に何か乳を飲ませることの出來ないと云ふ止むを得ん事情が有りますれば仕方が無いから、是れは他の乳を與へなければな

人乳の改良

りませぬ。歐米の人は母の乳を用ゐませんで、多くは牛乳を以て育つることが一般に行はれて居ります、我邦でも大分斯の如き傾きが近此行はれて參ッたやうで、中等以上、殊に上流の處に至ッてはそう云ふ傾向が大分御座います樣ですが、併し只今申上げます通り母の乳に超すものは無ひと思ひます、牛乳等で育てますと、どうしても天然に適宜なる母の乳の樣には出來ませぬ。デ其事に就ては本年一月一日發行の太陽の中に、幼兒衛生と題しまして、小兒の衛生と云ふ事に大へん熱心の三島通良君が揭げられたことが御座いますから烏渡其一節を拔いて見ますれば、斯ふ云ふことが記して有ります。

我邦は幸にして小兒の爲には極く好い國である、西洋人などは常に羨んで居る、日本の小兒の天國であるなど云ふて居る、實に幸では有りませぬか、其原因は何であるかと云ふと、日本の小兒衛生が世界に冠たる所以でもない、只此國の風土氣候が天然に良好のと多く乳母を以て子を養ふからである。モ一つは母親の乳が多く穀食する爲めに良い乳汁が澤山に出ると云ふのが先づ主なる原因で有りませやう。

と、斯う言ッて有りますが、實に爾うでございまして、母の乳に如くものはない、然るに已むを得ざる事情の有るのは兎も角、格別の事故もないのに母の乳を用ゐずして、牛乳を用ゐるのはどうも餘り善いことでは無いと思ひます。私は何うか歐米の斯くの如き風習が我國に流行せぬ樣に致したひと思ひます。併しながら其生みの母が生兒に乳を與ふることの出來ない事情が有りますとか、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

或は又健康ならずしてその乳が悪るい場合には、是れに代はるものを與へんければなりませぬ、然るときは何が宜いかと申しますれば則ち乳母の乳を以て育てるので有ります。

さてその乳母を雇ふに就ては種々の注意を要します、只今も申した通り生みの母でございますれば天然に其乳汁の濃さも、その小兒に適する様になッて居りまするけれども、併し乳母で御座いますると、爾う云ふ譯には參りませぬから成るべく其子に適する様に撰はなければなりませぬ。先づ第一に其血統を調べなければならぬ、而して悪疾遺傳等の有るのは避けなければなりませぬ。第二にはその雇ひ入るゝ處の乳母の分娩致した月日の成るべく似合ふて居るのを撰ばなければなりませぬ。さうしますればつまり母の乳と同様になりますから別に不都合は有りませぬ。然るに例へは分娩後十ヶ月經ッた乳母の乳を、分娩後一ヶ月の小兒に與へると、其兒は胃を害し、それが爲め不幸に陥ることが有ります。畢竟小兒の胃も月の經つに從ひまして、漸々強くなりまするので有りますから、生れてやうやく一ヶ月の乳を消化するに足るだけの胃を以て居る處の小兒に十ヶ月の乳を與へますれば必ず其胃を害するに違ひないので有ります。又是れに反して生後十ヶ月の小兒に、一ヶ月の乳を與へますると、其乳汁が淡過ぎて、やはり不適當であらうと思ひます、故に乳母を雇ふには其分娩の時期の生みの母と略近きものを撰ぶのが必要と私は考へます。第三には乳を顯微鏡に掛けて試驗し、又化學的分析を致しまして、乳の良し悪しを見るのが必要で有ります、而して悪疾

人乳の改良

遺傳の恐れもなく、又年月も能く寄似ッて居り、分析上幷に顯微鏡的試驗も好いとしますれば母の乳に代用することが出來ませうと思ひます。ソレで私が衛生試驗所に於きまして數年前日本人の乳を多く聚めて試驗をして見たいと思ひまして種〻困難をして漸く一年未滿の乳を百種類一年以上の乳を二十餘種聚めて分析を致しました、因より多少分娩月日の違ひもあり、又其成分の量も幾分かづゝ違ひますからソレを調べ、而して一年未滿の百種の乳は其平均數を取ッて、之を歐米人の乳と比較したことが有りますが、日本人と歐米人とは大分乳の成分の量が違ひます、是れはつまり食物が違うからで有らうと私は考へます、今日其比較表を持ッて參りましたから鳥渡御覽に入れます此表は細かに事は繁雜故只鳥渡見て解る樣に採色をして置きました。(採色表略す)

分娩後一年未滿の本邦婦人の乳百種の分析平均量を歐州婦人乳二百餘種の平均量と比較するに左の如し

比較 本邦人乳 歐州人乳	最低% 本邦	最低% 歐州	最高% 本邦	最高% 歐州
比重	一、〇二五三	一、〇二〇〇	一、〇三六〇	一、〇三六〇
含窒素物	〇、七六四	〇、六九〇	二、七六〇	四、七〇〇
脂肪	一、三三九	一、四三〇	八、五一〇	六、八三〇
乳糖	六、七六〇	三、八八〇	八、四五〇	八、三四〇
無機塩	〇、〇六〇	〇、一二〇	〇、二九五	一、九〇〇
水分	八二、八七二	八一、〇一〇	九〇、三九七	九一、四〇〇
脂肪/含窒素物	一、七五	二、〇七	三、〇八	一、四五
幾分比例	七、五五	一〇、八七	一〇、七七	二一、一七

平均 %	本邦	歐州
	—	—
	一、五三〇	二、二九〇
	二、九七四	二、七八〇
	七、六一三	六、二一〇
	〇、一五六	〇、三一〇
	八七、七二七	八七、四一〇
	一、九五	一、六五
	九、八三	六、四八

さて乳の中に含める成分は、脂肪、含窒素物（即ち乾酪及蛋白）乳糖、無機鹽であります此表で見ますると、先づ脂肪の量は歐州婦人の方が殆ど三分の一ほど多い、乾酪素及蛋白質も歐州婦人の乳の方が多く、又乳糖は日本婦人の乳の方が非常に多い、是れは恐らく食物の異なる所以で有らうと私は考へます。つまり西洋人は肉食する故從つて脂肪分蛋白質が多く、東洋の婦人は米食則ち澱粉砂糖を含んで居る物を多く食べまするので、乳糖の量が多いのであらうと思ふ、輙ち食物に因つて斯くの如き差を生じます。併しながらもつと多くの乳を得て分析して見ましたならば、何う云ふ差を生ずるか解りませぬ。

モウ一つは乳母の乳に就て面白い成績を得ましたことが有りますから、ソレを御話を致します。曾て衛生試驗所に奉職して居られました醫學士古川榮君は、私の勤務して居ります衛生試驗所の驗明部部長をして居りました、此際古川君の妻君が少しく病氣の爲めに乳の性質が惡るくて已むを得ず小兒の乳母を雇ふことになりましたそこで田舍から雇ひますことにありまして、其雇ふ前に先づ乳の檢査を致した、然る處私は始終乳を取扱つて居りますので、私に其試驗を依賴があつて分析をした處が、分析上乳の性質も宜い、倘ほ醫師の事故、乳母の健康其他の事も十分に調査をして愈々雇ひ入れました處が、初めは大へんに乳がよろし

かつたですが、漸々月日の經るに從ッて何うも乳が惡るくなッて參りました。ソコで古川君も初め良かッたものが、だん／＼惡るくなるとは何う云ふ原因かと頻りに心配をして「何うか是れを改良する方法は無からうか、何かこれには原因が有るに相違ないから一ッ調べて見たい」と言つて其事を依賴された、僕は古川君もだん／＼調べられたに、何處にも替ッた處はない、つまり此上は食物でも注意すればするのであるが、固より田舍者故生魚或は肉類等は少しも食べませぬ、ソレから牛乳を飲めと申しても、牛乳もやはり飲むことが出來ない、食物の方では如何ともすることが出來ない、ソレからいろ／＼と注意をされた處が、何うも運動が缺乏して居る樣である、ちッとも戸外に出ぬ只內でゴロ／＼寢てばかり居る、强いて運動させ樣と思ッてもなにせよ田舍から出たばかりの者ゆへ都會の路を知らぬ爲め兎角出ることを嫌ひます斯やうな有樣故是れはモウ運動をさせるより外ない、何か運動の方でうまい方法はないかと我々へ復相談が御座いました、ソレから我々もいろ／＼考へて、ソレでは一ッ毎日役所への辨當運びをさせては何うかといふ議が出てとう／＼夫れに決しました當時古川君は小川町山龍堂病院の近傍に住して居られましたが、毎日其處から和泉町の第二病院の隣りまで午前に辨當を持參して午后には又空辨當を取りに來る樣に致しました。ソレからは毎日小兒を脊負ふて辨當運びをさせましてそれから凡そ二週間ほど經ッて後その乳を分析しました處が大分良くなッて來た、なほ一週間を置いて再び調べましたところが今度は大へんに良くなッて

殆ど圍ひ入れました時の乳のやうになりました。ソレからしてソの儘で居りますれば良くなッたと云ふだけの事で、未だ少しく我々の試驗の材料には面白くありませんでしたが、幸か不幸か古川君の小兒が今度は風邪に冒かされ外出を見合せしたそれから丁度十日餘り經ッて試驗をした處が、復たソロ／＼脂肪分の量が下ッて參ッた、然るに全快致してから再び元の通り運動をさせて而して復試驗しました處が漸々良くなッて來ました是れに因て見ますれば乳の良否は多くは運動に因ると云ふことを知りまして、今後も運動を注意するより外仕方がない、今迄に嫌ひな魚を勸めた處が何の甲斐もないからといふので、怠らず運動をさせることになりました、デ此古川君の乳母は運動の後非常に好結果を得ました而して其後も能く運動をするだけで別に嫌ひな食物を食べたと云ふ様なこともない。他に何か變ッたことが有るか何うかと思ッて注意をされたが別に變ッたこともない。併し只食量が非常に增して來たと云ふことで、其他には少しも異ッたことはなく、全く運動のために乳は益々良くなッたので御座います。此表は只今申しました乳母に就て運動と乳との關係の數を以て明かにしたので御座います。（示されたる表は古川醫學士の乳母の分娩後百四十日より四百十一日に至るまでの間に於て、運動缺乏或は感冒の爲めに現はれたる成分の差を記されたるものなり。なほ他に運動と脂肪との關係を昇降線を以て記されたる表にて示されたれ共詳細は畧す）此乳の良否を知るには先づ脂肪分を量るのが一番よい何故なれば乳の良否は脂肪の多少に因ッて大抵分

りますから其多少に據て良否を定めても甚だしき間違ひはない、此表などを御覽になッても乳糖等は運動の爲めに少しも變ッて居りませぬ、運動の良し惡に因ッて著しき差を生じて居るのは脂肪の量で御座います。是れは只一人の乳母に就て得たる成績で、斯う云ふ材料は容易に得られませぬので、乳母に就ては此外に試驗をしたことは御座いませぬ。ソレで私は當衞生會に願ッて置きたいと思ひます、斯う云ふ試驗の材料を下さることが出來ますれば私は喜んで試驗を致したいと思ひます、何うか御會員中に御熱心の御方が有ッて、確實の材料を下されば私は如何樣にも試驗の勞を取りたいと思ひます。斯樣な材料即ち前に御示し申したる如き母の乳を頂戴して試驗の材料を造りますのは實に困難で、つまり小兒の食量を貰ひ受けるの故並大抵のことでは頂戴することが出來ないので實に困ります。併し好機會があッて戴けるならば今一層人乳に就て充分に調べたいと思ひます。尚ほ運動と脂肪との關係はモウ一ッ試みたことが有ります。ソレは外では有りませぬが、飯田町の長髮軒と云ふ牛乳商が乳牛を澤山畜ッて居りましたが、どうも牛乳が薄くて可けない、なにか好い工夫はなからうかと云ふ話故、私は今申した乳母に就ての經驗を話して、牛にも充分に運動をさせることを勸めました。併ながら市內で牛を畜ひまするには容易に充分の牧場を得ることは出來ませぬ、狹い處に多くの牛を畜ッて居りますから充分に運動させますることは到底出來ない、又之を望んでも行はれんとで有りませうと思ひましたから、私は牽運動と云ふことを勸めました。そこ

で毎日試みに二頭宛を牽いて運動をさせました、而して是れは試驗材料にする爲め、殊に乳の中に脂肪の量の少ない惡るい牛を撰んで一ヶ月程試みました。其路順は飯田橋を出て小石川砲兵工廠前を通り、水道橋を這入ッて元の牛舍に歸ることにしたのです。而して其搾取した乳は凡ソ一月斗の間毎日朝夕私の宅に持ッて參ッては試驗をしまして一週間の平均を取て見ました處が、乳母に於けるが如き著しき差は見ませんでしたが、併しなにせよ惡るい乳が余程良くなつて非常に牛乳屋の主人も喜んで居りました。けれども其うちに牛疫が流行し始めて斯う云ふ試驗をする譯にも參らぬやうになつて牽運動も廢めました。ソレからモウ一ツは今日御出席になつて居られます下谷二長町の牛乳商の和田さんに此話をしましたら材料は確かにして上げやうから着手て見たら宜からうと云ふことで、是れも遣つて見ましたが、矢張り牛疫流行の爲めに往來を牽いて歩くことが出來ないので半にして廢しました、さう云ふ譯で牛乳の方ではとにかく結果を見ることが出來ないで廢しましたが、運動に就て乳の良くなるは人も牛も變りはなからうと思ひます、併し是れもなほ數多の人に就て試驗を行ひ其成績を調べたら愈々確實にならうと思ひます。元より運動の身躰に好い事は誰れしも唱ふる處であッて別段に珍らしいことでは有りませぬ、運動の爲め體重が増加し、健康になッたと云ふことは常に人の言ふことであるが、乳母の乳に就ての斯う云ふ證據は未だ擧ッて居りませぬ樣ですから、私は面白い成績と思ひまして、古川君と共に衛生會雜誌に摘んで載せたこ

人乳の改良

とも有りますが、實に運動は分娩をなすッた母親には誠に大切の事と思ひますので爰に御話を致しました次第で御座ります。デ私は既にも御話をした通り「人乳の改良」と云ふことは誤りで只「乳の話」と云ふ題で御話を申上ぐる積りであッたと云ふ事を述べましたが、是等の事は暗に改良と申して宜からうと思ひます、返へす〴〵も良き乳を得やうと思ひますには充分運動をなさるとが必要と思ひます。

生母と乳と乳母の乳とは段々申しました通りでありますが若しも母の乳なは乳母の乳さへ用ゆることが出來ない場合には。牛乳を措いては他に適當のものは有りませぬ、人間の乳に能く相似て居るは、山羊或は羊の乳であると申しますが、東京のやうな處では迚もこれは得難うございます。一時は山羊の乳を販賣した者も有りましたやうですが未だ世人が左程に重きを措かぬので營業としては引合はんと見へて當今では府下に是れを賣捌くものは無い樣になりました山羊或は羊の乳は得難いとして見れば、牛乳より外有りませぬ、此牛乳と云ふものは、其成分は人間の乳と同じながら分量は異ッて居ります、又乳球と云ふものが人乳より牛乳の方が大きい、而して是れを代用して小兒を育てまするには、人の乳に似寄る樣にしなければ本來は可けないので有ります（人乳と牛乳との成分比較表を示さる即ち左の如し）

成分%	人乳	牛乳
脂肪	三、七八	三、六二
蛋白質	一、二六	〇、四八
乾酪質	一、〇三	三、一八
乳糖	六、二一	四、八二

無機塩(灰分)	〇、三一	〇、六八
水分	八七、四一	八七、二二
反應	弱アルカリ性	弱酸性

斯くの如く其量の殆ど同じなるは脂肪にして、著しき差あるは乳糖で御座います。デ近來歐羅巴では牛乳を以て小兒を育てまするのに、分娩を日數に順ッて薄める量を異にして參るのみならず、分離器と申して乳の中の脂肪と他の物とを分離させる器械で、一度分離させます、而して醫師の指揮を俟ッて再之を適宜に合せます、今東京では芝琴平町の中村と云ふものが之を行ッて居ります。ソレはどう云ふ風にするかと申しますれば……私は近頃此中村の顧問官の樣なことをして居りまして嘗て亞米利加で牛乳の事に就て熱心に取調べられたる農學士の千足と云ふ人に聞きますに近頃米國では人乳の代りに牛乳を用ふるには分離器で脂肪分を分離して、而して矢張り小兒科の醫師に、此小兒には若干程の分量に之を配合すれば宜いかを診斷して貰ッて、丁度醫師が處方箋に藥方を書かれるのと同じ樣に、其量を記しまして、牛乳商が其處方箋に據ッて配合します、さうすれば間違ひはないと申されました併し日本では未だソコまでには整ッて居りませぬけれども、弘田先生なども段々爾う云ふ風にしたいとの御意見ださうに御座いますが、未だ小兒の體格を見て、乳の成分の量を處方箋に記して調劑をさせると云ふことは通常の牛乳商には準備がして無いから到底急には出來ませぬ。デ只今申した處方箋は此れで御座います(標本を示さる)……つまり醫師が此躰格みれば脂肪は若干、乳糖は若干と云ふ樣に、又人の乳はアルカリ性で牛乳は酸性でありますから稍其性

質が違ひます故、少しく石灰水を加へて人間の乳に近い様アルカリ性とします而して摘要の欄内には一日何回に飲むと云ふことを書き、又は是れを何度溫度に暖めて飲ませると云ふことを書き記し又た診察を受けた小兒の姓名と診察をした醫師の姓名とを記します、先づ斯樣に近來は進歩して參りました。尚ほ殊に小兒科の醫師に診察を受ける必要の有るのは、其小兒の躰格に由ッて日々の用量を定むることで有ります。先づ普通の健康なる体格の小兒の、乳を用ゆる分量は斯う云ふ工合になッて居ります（脂肪、糖分、蛋白質の百分比例及日々の用量表を示さる則ち左の如し）

今娩後日數	一日乃至二日	三日乃至七日	一週乃至四週	一ヶ月乃至三ヶ月	三ヶ月乃至四ヶ月
脂肪%	〇	二•〇	二•五	三•〇	三•五
乳糖%	五•〇	六•〇	六•〇	六•〇	六•〇
蛋白質%	〇	〇•六	〇•八	一•〇	一•二五
用量「グラム」	一二五乃至二五〇	三一〇乃至四六〇	六二〇乃至九三〇	六八〇乃至一一一〇	八七〇乃至一一八〇
用量「オンス」	四乃至八	一〇乃至十五	二〇乃至三二	二二〇乃至三六	二八乃至三八

	四ヶ月乃至六ヶ月	六ヶ月乃至九ヶ月	九ヶ月乃至十二ヶ月	十二ヶ月乃至十五ヶ月	十五ヶ月乃至十八ヶ月
脂肪%	四•〇	四•〇	四•〇	四•〇	四•〇
乳糖%	六•〇	七•〇	六•〇	五•〇	五•〇

蛋白質%	一・五	二・〇	二・五	三・〇	三・五
用量「グラム」	九九〇乃至一一八〇	一〇五〇乃至一三〇〇	一一八〇乃至一四〇〇	一二四〇乃至一五五〇	一四〇〇乃至一五五〇
用量「ヲンス」	三二乃至三八	三四乃至四二	三八乃至四五	四〇乃至五〇	四五乃至五〇
	十八ヶ月以上(全乳)				
脂肪%	三・五	—	—	—	—
乳糖%	四・三	—	—	—	—
蛋白質%	四・〇	—	—	—	—
用量「グラム」	一四〇〇乃至四一五五	—	—	—	—
用量「ヲンス」	四五乃至五〇	—	—	—	—

此表は歐羅巴の有名なる先生が實驗に徴して調べられたので斯くの如く初めは薄く、漸々に濃くして參ります、さうして十八ヶ月以上は全乳と申して、牛乳も其儘で飲ませます、是れから先は他の食料を用ゐますから乳の方には左程に重きを置かないので有ります。從來は牛乳を用ゐるのにも

三ヶ月までは三倍に薄め、半ヶ年までは二倍に割り、ソレより後は其儘の乳を用ゐると云ふ樣な極く簡單なる割合でありましたが、近比に斯くの如く細かに、殊に牛乳其物を直接に薄めるのでなく一度分離器分けて更に配合する樣になりました、是れは極く近比の樣に聞き及びます、小兒に與へ

ます牛乳は、分離器で分けて其成分を適宜の分量に合はせますが、大人方の用ゐらるゝ乳は分離器に一旦掛けて、再び元の通りに合はせます。其分離器に掛けて分けるのは何の必要かと申せば、是れは只分かつばかりではなく、私は器械を使用する處も見ましたが、其器械の裝置はくだ〳〵しいか省きますがつまり遠心力の作用で輕き處の乳の脂肪は中央の真棒を傳ッて上の方に上騰し、重い處の殘乳は少し下の方から流れ出る様になッて居ります其上の方から出まするのは殆んど脂肪ばかり又下から出まするのは脂肪が殆ど無いと云ッて宜い位で、先づ乳の滓で御座います、其器械の運轉しますことは實に迅いもので御座います、其車は歯車になッて居ッて、一回廻はすと段々中の方の車に傳へて、一分間に外の車が四十程廻はるとソレが他の小さな車に傳たはりて終に内部の車は凡そ二千回程廻はると云ふことで御座います。さうすると其遠心力で上から脂肪分が出で、下から滓の乳が出ます、此器械に掛けますると眼に見えない處の極く小さな塵埃が殘ります、デ此牛乳と云ふものは通常何處でも布片或は絹布で漉し、或はフラチルで漉します、そうして配達をするのですから大きな塵埃は固よりソレで除去ますが細い塵埃は取れませぬ是れを分離器に懸けて見ますと實に驚くのは眼に見えない處の穢ない塵埃が器械に附着して殘るのであります、ソレは上騰することは有りませぬ、つまり脂肪より非常に重いので下に殘るので有ります、今是れを取ッて見ると淡黑い實に汚ないものであります、尚は顕微鏡で調査をすると、其中の多くは牛の糞です、糞など

が乳の中に這入るべき理は無からうと思はれますが、實際牛舎に往ッて見ると、隨分注意をする樣であッても糞便は散亂し、從ッて其中の空氣等も汚れて居るので、少しく風でも吹くと乾いた糞は舎內を舞ふて居ると云ふやうな有樣ゆへ乳を搾ッて居る際に、何時となしに這入るのもありませうし加ふるに不注意な處に於ては、掃除の行屆かない塵埃だらけの中で搾ると云ふやうなことも有りませう或は又牛などは乳を搾ッて居ることなどには頓着なく糞便をする、さうすると其飛沫が這入る、けれどもソレ等は「見ぬもの淨しで」一向清淨なつもりで居るが、分離器に掛けて見ればおどろくほど汚ないものが殘ます、ソレ故に分離器に掛けたものは先づ清淨の乳といはなければならない。分離器のモウ一つ非常に利益の有ますとは、時として病牛の乳を搾るとが往々ある、牛にも肺病其外いろ〳〵の病氣が有る、ソレに感染した牛の乳が交ることが有る、此事は豫て警察の取締規則が有ッて、病牛の乳を搾ることは出來ないことになッて居りますから甚だしきことは有りませぬ、併し感染した位ゐで未だ乳を搾ることを禁せられないと云ふ樣なものも屢々有りまして實に危險でありますが、分離器に掛ければ是等の塵埃も除かれて了ひます。今御話をしました中村と申すものは一旦分離器で分ちたる乳を合せて、今度は消毒の爲め攝氏の七十五度に熱して配達をするさうで御座います。さうすれば縱ひ病菌的の微菌があッてもソレは皆死んでしまふので、ソレならば少しの危險も有りませぬ、此中村と申す者は振ッて此方に力を盡し、凡ての器械を具へ消毒乳など

人乳の改良

ゝ稱へて販賣をして居るやうで有ります。今後は漸々府下の牛乳商も皆其方に注意をするやうにならうと思ひます。どうか牛乳と云ふものは右申す樣なものでありますから、小兒を育て養ふ時には勿論、大人方の用ゐらるゝにも爾う云ふ器械に掛けて、充分消毒をした乳を召上がる樣になさるのが最も必要と私は考へます。從來在りました牛乳を消毒する器械は是れなどが（神田淡路町風雲堂製消毒瓶を示さる）一寸簡單にして宜い樣で有ります。是れは御覽の通り此硝子壜に乳を肩まで入れ護謨の厚板を以て覆ひたる後ブリキ製の兜見たやうなものを被ぶせ而して是れを少し湯を入れたる銅製器の中に納れ、其底を火にて三十分乃至一時間煮沸して然る後、自然にこれを冷します、又急ぐときは水の中に器ごと入れても宜い、御承知の通り斯樣に煮沸しまするど湯の爲めに牛乳は膨脹して液面以上は水蒸氣で充ちて居る、今冷しますると、護謨で抑へて居りますから、外から空氣が這入ることが出來ない、然るに周圍より冷されるので中の水蒸氣は水になツて了ツて全く眞空になツて居る、斯樣にしますれば其乳は安全で有ります、一体乳の腐敗しまするのは、空氣から酸素が這入ツて、ソレが爲め腐るもの故熱して空氣を遮斷して置けば腐敗を催す處の「バクテリヤ」を殺して了ひますから一週間や十日置きましても其乳は腐らない、且つ此乳は一度消毒してあるから安全であります、此消毒する器には色々の型が有りますが、私は模型に是れを借りて來たのであるが、先づ私は消毒するには是等が極く宜しいやうに思ひます、けれども私は自分で一ツ工夫したて

とが有りますからソレを御話致さうと思ひます。ソレは私が都合ありまして自分の子供を牛乳のみで育てました。ソレ故初めは此壜（前に示されたる壜）を用ゐて居りましたが、是れはなか〳〵面倒にもあり且つ破れ易き故此壜を用ゐることを廢しまして、後には燗徳利を以て煮沸することにしました、土鍋などで搔き廻はすものもありますが、是れは煮え立つまで棄て丶置く譯にも往かず、又殘ッたのを其儘にして置けば塵埃も黴菌も這入るから、是れはよろしく有りませぬ。燗徳利で消毒するの法は先つ燗徳利に牛乳を盛り其口を木栓の中央に孔を穿け、其孔に消毒綿を詰めたるものにて栓をなし而して酒の燗をするが如くに、此儘（實物を示さる）鐵瓶の中に入れて煮ますると、外から空氣は這入りますが、綿を通して這入る、

凡て黴菌と云ふものは密なる綿の纖維を透しては這入らぬものであります。ソレ故に凡て黴菌試驗をなしまするにも、皆極密に綿を用ゐると云ふ位ゐに、綿と云ふものは効能の有るもので御座います、而して綿が汚なくあれば度々取換ねます、或は木栓で有りませんでも淸潔な綿を栓にすればソレでも宜いが、併しソレでは口の周圍に綿が附着してなんとなく始末惡るく汚なくも見えますから木栓に孔を穿ッて綿を塡める方が宜いと思ひます。木栓の孔は燒け火箸を以て衝きますと雜作もなく穿きまして少しもむづかしい器械等は要りませぬ、そして其効に於ては確かで有ります。併し充分大事を取ッて体裁の好い器械と云へば是れなどが宜い。（前に示されたるものなり）追々牛乳商が進んで參りて消毒をする樣になれば宜しいが、

まだなか〳〵安心をして居ることは出來ませぬから、斯くの如く消毒を施して然る後用ゐるが宜いと思ひます。彼の中村などで分離器に掛けて分離しますのは畢竟漉すと同じです、さうして再び合はせ、又之を煮沸して綿を栓にして、配達をすると云ふは費用が懸るので、通常市中で一合三錢五厘のものは四錢五厘であければ引合はぬと言ッて居りました。併し是れならば極く安全で代價の如何に拘はるまいと思ひます、先づ牛乳の御話はこれで止めて置きます。

又僻鄙な場所で、牛乳を得難い場合が有る、例之ば市街の一二里先きから牛乳を配達して貰うので夜まで置けば腐ると云ふ樣な土地に至ッては已むを得ませぬから、此時に用ゆるには煉乳即ち「コンデンスミルク」に如くものはありません、乳の粉や米の粉抔は迚も可けませぬ、其場合には煉乳を以て養ふが宜しい、煉乳も近頃では和製で大へんに良品が出來ます、御承知の通り煉乳と云ふものは乳を煮詰めて砂糖を混ぜたので有ります、一体小兒の胃には砂糖は宜しくないから成るべく用ゐない方が宜いが、已むを得ざる時は用ゐなければならない。從來は亞米利加製の鷲印が聲價を得て居るので、少し注意をする人は鷲印に限る樣に申して居ります。併なから鷲印は此頃の相場は知りませぬが、一年程前鑵屋等で買ッて居りました舶來の鷲印の所謂保險附とか云ふものは、一ト鑵三十五六錢で有りました、其時分に和製の煉乳は二十二三錢から二十五錢位ゐで、非常の差が有りました。同じ舶來の内でも人物、人の首などの印の物は廉いので、鷲印は飛び上ッて高い、あれは

一番古くから渡ッて信用を得て居るので有りませう。併ながら私の調べた處では、分拆上さほどには良くない樣に思ひます、却て和製の品にもソレに優るものが有るやうでございます。只感服すべきは、遉がは盛大にして居る古い會社で製造するだけあッて、品質は飛び上ッて良くはないが、何時でも不同はないこれが鷲印の特色の樣に思ひます。殊に鷲印は稠度即ち軟かさか宜く出來て居りますから溫湯には容易く溶けます然るに和製の內には分拆上では良しひが或は稠度が硬た過きて溫湯に溶け難きものかあります又和製にはザク／＼するのがありますが、併しザラ／＼しても別に有害の物を含んで居るのではないので有ります。此煉乳に就ても明治二十七八年に調査したことが有りますから、併せて其成績をも御覽に入れます。

內國製煉乳六種分拆表（但シ各二回分拆平均％）

商標	脂肪	乾酪蛋白質	乳糖	蔗糖	灰分	水分	買入年月	一罐ノ價	買入先
鷹印	一〇、五〇〇	九、六〇三	一二、八四〇	四一、〇七七	二、一〇〇	二四、八八一	廿八年三月 同八月	廿三錢	本町 鰯屋本店
龜印	九、七六八	八、三一三	八、七三六	四三、四一四	一、七八〇	二六、九七〇	同	廿一錢 二十錢	下谷池ノ端 守田治兵衛
日本一 桃太郎印	九、三九三	八、三五七	一〇、三七六	四一、四三七	一、七八〇	二六、九七〇	同	廿三錢 廿一錢五厘	本町二丁目 鈴木恒吉
大日本 軍人印	七、九五〇	八、一八二	九、五五六	四六、六九四	一、六六五	二五、九五四	廿八年四月 同八月	廿二錢 廿三錢	銀座二丁目 東京海陸社

人乳の改良

内外別	脂肪	乾酪蛋白質	乳糖	蔗糖	灰分	水分	—	一罐ノ價
日ノ出印	八、三七五	八、七五〇	九、八二八	四三、五六五	一、七〇〇	二七、七八三	廿八年十一月 廿九年二月	廿二錢	大傳馬町二丁目 逸見山陽堂
イヲセ牛印	一三、〇六三	一一、二〇〇	一四、七四八	三七、五五六	二、二二七	三三、一五七	廿八年三月 同八月	廿二錢	京橋區中橋 野澤商店

外國製煉乳八種分析表同上

内外別	脂肪	乾酪蛋白質	乳糖	蔗糖	灰分	水分	—	一罐ノ價
鷲印	八、七三八	九、二四六	八、三〇〇	四一、二七五	一、七九五	三〇、六四八	廿八年四月 廿九年二月	卅六錢 卅三錢	神田淡路町 龜屋五三郎
人形印	八、九二五	九、八〇〇	二、六九二	三八、八二六	一、九二〇	二八、八三七	廿八年四月 同八月	廿四錢 廿二錢	同
彩色婦人印	一〇、〇八八	一〇、二三八	九、八二四	四一、五三三	二、〇三〇	二六、二八九	同	三十錢 卅八錢	通り三丁目 丸善
小鳥印	九、六七五	一〇、〇一九	一三、四六八	三九、六三一	一、九九〇	二五、二一七	同	廿六錢 廿五錢	龜屋五三郎
花印	八、九三八	八、五一三	八、一五五	四三、九九二	一、七八〇	二八、六二四	廿八年八月 同九月	廿三錢	本郷五丁目 青木堂
六旗印	一〇、一一七	一〇、八九四	一三、五〇八	三五、三九四	二、一五〇	二八、九三八	廿八年八月 廿九年一月	—	横濱 アーレンス株式社
カストル	九、三〇〇	九、六六九	一二、九四〇	三八、三六二	一、九九五	二七、七三四	廿八年八月 廿九年二月	廿四錢 廿五錢	尾張町二丁目 森泉
麒麟印	八、八八八	八、三一三	九、三四四	四五、三六三	一、七一五	二六、三七八	廿八年四月 同八月	廿三錢	吾妻橋側 倉島初

内外國製煉乳分拆比較表%

内國製	一三、一〇〇	一一、三七五	一五、一五二	四八、六三六	二、三三〇	三〇、一六二	—	廿三錢
外國製	一〇、三五〇	一一、二八八	一四、一八四	四五、九六三	二、一六〇	三三、八三五	—	卅六錢
内國製	七、二五〇	七、八七五	八、五八四	三七、〇九二	一、六一〇	二一、一八二	—	二十錢
外國製	八、一五〇	八、〇五〇	七、三〇〇	三三、五四九	一、六六〇	二三、八三九	—	廿二錢
内國製	九、六七八	九、〇六七	一〇、八四七	四二、一二四	一、八八〇	二六、四〇四	—	廿二錢
外國製	九、三三三	九、五八四	一〇、七七九	四〇、五四七	一、九二一	二七、八三三	—	廿六錢三厘

斯くの如く内國製と外國製とを比較した處で、平均數を取ッて見ると、内國製の方が却ッて良い位ゐであります。又價の點も平均數で二十二錢と二十六錢の差があります、決して分析上で劣ッた處がないのですから、態々舶來品を仰ぐには及ばぬ樣でございます、近頃和製の內にて[illegible]印煉乳の如きは、分離器に懸けて脂肪と分ちまして、再び元の樣に合せて煉乳を造りますさうですから分析上の成績は兎も角も其製法は完全といはなければなりませぬ煉乳の御話もこれに止めて置きます。

前に御話をしたる分離器に掛けて殘りました糞便が實に汚ないから御參考の爲め御目に懸けます。

(實物を示さる)

又牛乳の脂肪分を定量する單簡の器械を御目に懸け、且つ其量る方法をも御目に懸けやうと思ッて、一二の器械を持ッて參りました。其他一度煮たる乳か生の乳かを見る方法も有ります、又米の磨ぎ汁のやうなものを投れたか否かを知ることも

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

出來ます、ソレを試驗するには夫々試藥が有りますから是れから、一寸試驗をして御覽に入れます。

（癒瘡木脂と申す藥と「アルコール」に溶したる液を乳の中に混ずるときは生乳は藍色に變じ一同煮たる乳は其色變ずることなきを實驗して示さる）

次に脂肪を量ッて御目に懸けます警察などでも器械を以て市中の牛乳を驗し惡しき乳は販賣を禁せらるるので有ります、此器械目下警視廳で牛乳の撿査に用ふる「ブテロメートル」と申すものにて是にて試驗すれば容易く乳の良否を知ることが出來ます。（實地牛乳を試驗せらる）

又牛乳の中に米の汁を入れたる疑あるものには沃陳丁幾と申す試藥を混じ、能く和ますれば矢張り藍色となります。（實物試驗せらる）

先づ是等の試驗に由ッて凡そ大體乳の良否を知ることが出來ます、尙ほ試驗の方法は種々有りますが、餘り面白くも有りますまいから、是れだけに致して置きます。今日は殊に詰らぬ事を饒舌なして却ッて御迷惑であつたことゝ思ひます

衛生叢談

◎急性胃加多兒の時の心得

加爹兒とは原語にして多く外來の刺戟によりて氣管或は消化器道の內面を被ふ薄き粘膜を侵し液の分泌を亢進せしむる變調を云ふ故に氣管にまれ消化器道にまれ苟も粘膜にて其內面を被はるゝ部分に此加爹兒の襲來に遭過せざる所なしと云ふも

不可なかるへし然れ共外來の刺撃を受くると多き場所は最も侵され易きの傾きあるは免るべからざるの數なり身体中胃腸幷に氣管は一日中外來の刺戟を被ると最も多き所なれは隨て是處に此變調を來たすと亦屢々なりとす人若し卒然に食志振はす食物に就き考を起し或は之を見て嘔氣を催し渴を訴へ心神不快を感じ頭痛又は頭部重く嘔吐を發し其嘔吐物は始め食したるまゝの物次に醱酵に傾きたる不消化物にして仮令胃中に既に吐出すへき物なきに至るも嘔氣は止まずして水様の粘着性を有する物質を吐き甚しきに至りては吐物中に少量の血液を混ずるとあり終りに臨み帶黃色又は帶綠色又は淡黑色の液を吐くとあり此着色したる吐出物は大に苦味を有す其他吃逆を起し臭氣を有する噯氣を發し一般に胃部充滿したるの感を覺へ其部を指にて厂するときか又は自ら疼痛を感し其疼痛背部又は肩部に傳播し食物を取りたる後には疼痛一層甚しく舌は苔蘚様のものを帶び呼吸氣に臭氣を覺へ便秘或は下痢を發したるときは大抵急性の胃加答兒を發したるものと知るべし体熱は通常變化なきものあれ共時として輕度の昇騰を來たし或は高熱を發することあり斯の如く高熱を發する場合には屢々腸チブスと誤ることあれば疑しき場合には成るべく早く醫の診察を乞ふべし

通常素人の注意すべき事項は胃加答兒を起さざる豫防即ち飮食物の攝生にあり蓋し此症を起すへき原因は飮食物の普通にあらさるもの仮へは熱きを過ぎたるもの甚だ辛きもの硬きもの等を多食したる爲めに發し或は一日に數回飮食したる爲に起り或は一時に多食して發し或は屢腐敗したる飮食

物殊に惡しき肉類、葡萄酒、醱酵せざるビール、不潔の水、不熟の菓物等は多く胃加答兒を起すものなれば是等の飲食物を決して取らざれは其危險を免るべし其他誤ッて劇烈の藥汁を嚥下したり硬き物体の混合したる食物を食ひ又は時を定めず食事を行ひたる場合にも屢々此症に罹ることあり

メシエード及びグルハルド兩氏の經驗によれば蛆の生じたる牛酪を食ひて胃加答兒を起したる例あり

患者若し嘔吐を發したる時には成るべく之れを止むることなく充分に吐かしむべし又格別に食氣なきものには强て食物を勸むるなかれ只一二日間斷食せしめ決して固形の食物を與へず若し止むを得ずして與ふべきときには薄き肉羹汁又は薄き茶又は煮沸したる牛乳少量を許すべし其他は醫の命によりて藥汁を與ふべきものとす

◎小便に就きて（遺溺）

遺溺は殆んど全く小兒時の疾患にして女兒より男兒に多く通常三歲より十二歲の間に多く年を重ぬるに從つて自然に消失するものなり然れとも若し年齡破爪を越ゆるも消失せざるものに於ては成人して尙ほ此症を患ふることあり小兒夜間熟睡したる后一二時を經て識らず知らず溺を漏らす多く早朝又は深夜になすもの稀れなりとす又患者にして夢に依て溺を漏らすことあり之は多く偶然のことにして亦稀れなり

此症は屢々再發を來たし又は增惡するものにして患者は數週或は數月間全く發作なきを以て全快したるものと思ひ居るに突然と再發するが如きことあり此間歇時は冬時よりも夏時に多しこれ夏時は

汗の分泌冬時より多きが爲めに溺に影響を及ぼすに因るものならんか

小兒にして此症に罹るものは顔面蒼白にして全く食欲なきものか或は食氣頗る亢進するものとあり而して永く之を患ふるときは体操、力役、大笑、驚怖、心痛の如き体動及ひ精神感動の結果として日中知らずして溺を漏らすとあり稀れには絶へず溺漏するものありと云ふ

此症の原因は種々にして又た不明のこと多し然れとも多くの場合に於て其母の躾方惡しきに因る故に小兒は生後より二三年間（自ら排尿を知らする迄は）嚴に母若くは其保時を計りて兩便を爲さしむべし之れ自ら排尿の習慣備はりて此症を免るゝものなり又屢々飲食物攝生不完全の爲めに之に陷るものなり假へば就寢に先だち多量に飲食せしめ殊に果物、菓汁、湯、茶の類を與ふるとは最も愼まざるべからず

又包莖、龜頭及包皮の癒着、尿道狹窄、蛔蟲、肛門裂創、手淫、外陰炎（女兒）腎石、膀胱石等が其原因となるとあり

遺溺の療法は第一に其原因に向つて適當の治療を施すにありと雖とも總ての狀況に於て次の四項を反省すべし

第一　患者をして晝夜共全く一定時に尿を排泄せしめ夜間就寢后一時間を經て之れを起し排尿せしむべきこと

第二　夕食後二時間を經ざれば寢に就かしめず且夕食に多く食しめず液体を飲むことを減ずべきこと

第三　臥床には固き蒲團と薄き夜着を與ふべき

こと

第四　患者をして側臥せしむべきこと蓋し經驗によれば仰臥は最も速に遺溺し易きものなればなり

平常消化し易き榮養に富みたる食物を適宜に與へ決して粗惡の食物を取らしむなかれ藥用は醫師に議るべし

大日本婦人衛生會記事

◎總集會　三月五日第一土曜日午后一時より麹町區内山下町華族會舘に於て總集會を開きたり席定まるや醫學士佐藤恒久君の創傷に關する演說あり次に製藥士田原良純君には消毒法に就き消毒室を裝置し種々實驗により演述せられ次に陸軍一等藥劑官恩田重信君には食物の養價に就き食品の良否營養の如何を演說せられたり半年度事務及會計報告等は掲示して會員に報告し併せて役員改撰を擧行し茶菓の接待等あり午后四時半頃散會せり

◎役員改撰の結果は會長副會長幹事等從前の通り重任せられ評議員も大同小異にして目下承諾問合せ中あるが今承諾せられし分を掲ぐれば左の如し

總裁　小松宮彰仁親王妃頼子殿下

改撰役員姓名

會長　子爵夫人　仁禮すが子

副會長　濱尾作子

幹事　（姓名いろは順以下倣之）

鳩山春子

仝　穗積歌子

仝　高木鐐子

仝　松平芳子

仝　北澤信子

仝　宮下咲子

仝　三浦敎子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

評議員 男爵夫人 岩崎早苗子
仝 賀田捨子
仝 羽田三緒子
仝 西升子
仝 男爵夫人 西きよ子
仝 德富靜子
仝 緒方悅子
仝 岡田德子
仝 加藤鈴子
仝 加藤常子
仝 加藤秀子
仝 丹波さた子
仝 南部くま子
仝 中濱芳子
仝 中橋悅子
仝 馬渡玉子
仝 木內磯路子
仝 宮本樂子
仝 三井晴子

寄送雜誌（自明治三十年九月 同 三十一年二月）

大日本私立衛生雜誌 六冊 大日本私立衛生會
埼玉衛生會 六冊 埼玉衛生會
三重衛生雜誌 六部 三重衛生會
藥石新報 十八部 藥石新報社
婦人新報 四冊 婦人新報社
越佐教育雜誌 五冊 越佐教育會
中外藥報 四冊 中外藥報社
衛生寶鑑 三部 聖會本塲
啞生同窓會報告 一冊 盲啞學校同窓會
學校兒童發育取調報告 一冊 三島通良君
普通看病學 一冊 佐伯理一郎君

廣告

一金貳圓 椿たか子
一蜜柑壹箱 和田福子
右は去五日總會の節寄附せられたり

自明治卅年九月
至仝卅一年二月半年度 收支決算報告

現在金高及收入之部

一金七百六拾貳圓參拾參錢貳厘

内譯

金參百九拾參圓七拾壹錢　銀行諸預金利子共
金拾圓七拾貳錢貳厘　前年度繰越金
金參百五拾七圓九拾錢　會費集高

支出之部

一金四百五拾壹圓九拾六錢九厘

内譯

金五拾七圓七拾錢　講師饗應費
金百五拾七圓參拾錢七厘　雜誌及諸印刷費
金拾圓　講師謝禮
金拾五圓　速記料
金六拾六圓　雜誌編集料
金參拾圓　事務員給料
金參拾九圓八拾六錢　會費雜誌通知集配手當
金貳拾八圓六拾八錢參厘　郵稅料
金拾圓九拾貳錢八厘　筆墨紙料
金拾參圓四拾壹錢五厘　會場費
金五圓貳拾錢　諸雜費
金九圓五錢　編集人諸雜費
金四圓拾八錢　總會雜費
金四圓六拾四錢六厘　初會雜費

收支差引殘

一金參百拾圓參拾六錢參厘

内譯

金參百圓　銀行預金
金拾圓參拾六錢五厘　後期繰越金

現在會員數

總數　九百六拾九人

内譯

府下修身會員　二十二人
府下特別會員　二十二人
府下賛成員　五十一人
府下通常會員　五百五十一人
地方修身會員　七人
地方特別會員　五人

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

地方賛成員　十六人
地方通常會員　百〇四人
千葉支會員　四十一人
新潟支會員　百五十人

◉會告

本會は是迄春秋二期の懇親會相開居候に付今回は宮内省御料地四谷植物御苑内に於て總集會相開き御苑拜覽の義願出候處御許可相成候に付來四月二日第一土曜日午後一時より(晴雨に拘はらず)仝所に於て集會相開き御苑内拜覽致し候當日は總裁小松宮御息所殿下にも御臨場の御豫定に付別項御承認可成御繰合せ御來會あらんことを

追而御來會の節は會費として金四十錢當日御持參相成度候(御同伴人同斷)

一當日辨當等の準備も有之候間御出席の方は本月三十日迄に下谷區練塀町四十三番地本會事務所宛御一報を乞

御苑内拜覽手續

一會員は會員證一枚にて御親族御知友御同伴差支なきも御苑出入の際會員證を門衛に示さるべき事

一男は羽織袴又は洋服着用の事

一畜類を連れさる事

一御苑内にて下駄を禁ずるにより各自草履を持參せらるべき事

一御苑内の花卉樹木其他の物品に手を觸れざる事

一御苑内にては靜粛を守り飲酒音樂放歌吟誦其他の喧騷所業を爲さゞる事

以上

◉入會者

◉中島いの子の紹介に依り
岐阜縣岐阜市縣立病院内　笠井ふみ子

◉宮本樂子の紹介に依り
麴町區上六番町三十四番地　前田とよ子

◉事務所へ申込に依り
麴町中六番町十四番地　賛成員　北澤正誠君
筑後國三池郡大牟田町集治監　武田政子
本郷第一醫院　木下きく子
順天堂病院内　桑原もと子

◉永谷きし子の紹介に依り
群馬縣永島郡字前小屋　飯塚ひさ子

◉遠藤いし子の紹介に依り
本郷區東竹町三十三番地　益田みつ子

廣告

◉柳川基礎子の紹介に依り
赤坂區新町五丁目四十二番地　原田能生子
麹町區下六番町四十四番地　深堀梅千代子
◉秀島初子の紹介に依り
下谷日本赤十字社病院內　內田せい子
仝　吉本いわ子
◉三島千代子の紹介に依り
京橋區南鍋町二丁目五番地　米津たか子
京橋區築地三丁目十五番地　太田もとゑ子
◉丹波さだ子の紹介により
神田小川町四十一番地　小林さき子
◉新潟支會へ申込に依り
中蒲原郡沼垂町　野崎のぶ子
新潟市西堀通り八番町　多賀ろく子
◉千葉支會へ申込に依り
千葉縣長州町　安藤きく子
千葉縣市塲町　丸山たけ子
千葉縣長州町　日比ます子

◉移轉者

本所區元町十八番地へ　栗塚龍子
麻布飯倉片町三十番地へ　沖きよ子
小石川林町六十二番地へ　土方かめ子
麹町區三番町三番地宮內大臣官舍へ　田中いよ子
日本橋區濱町一丁目二番地へ　大井田良子
仝　塙とせ子
牛込納戸町十四番地へ　飯田幸子
大和國奈良市北室町第七番邸ノ二へ　関野小枝子
東京市芝區新門前町十六番地へ　酒匂治子
仙臺市片平町二番地宮城支部看護婦養成所　中山はるゑ子
三州岡崎町大字康生二百七十七番地へ　森琴子
本郷森川町一番地二〇四號へ　近藤幸子
筑前國嘉穂郡鯰田炭坑へ　松田すゑ子
小石川武島町十番地へ　服部しげ子
神田駿河臺袋町十三番地增田病院へ　清水うめ子
赤坂區臺町四十七番地へ　大西いく子

◉再告

通常會員太田龍子には今回特別會員となられたり
會員礒邊そよ子には今回山田そよ子と改名せられたり

大日本婦人衛生會

私立大日本婦人衛生會規則

第一條　凡本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持するの方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を增進するにあり

第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置く

第三條　本會の會員たらんと欲する者は身分の尊卑を問はす何人にても入會することを得

第四條　會員たらんと欲する者は族籍住所姓名を記し本會事務所へ申込むへし

但事務所は下谷區練塀町四十三番地に置く

第五條　本會々員を分て終身會員特別會員通常會員の三種とし共に會費金を納むる者とす

但終身會員は一時に金拾圓以上を納め特別會員は一年金二圓四拾錢以上を納め通常會員は同年金壹圓二拾錢を納むる者とす尤も會員中書生及其他事故ある者は唯雜誌料として同六拾錢を納めしむ

第六條　男子にして本會の主義を替成する者は之を替成員とす尤も會費は本會員に同し

但本會に功勞ある者は役員の協議を以て終身替成會員(無會費)とすることある可し

第七條　本會に推戴員を置き其中より總裁一名を奉す推戴員は皇族の御息所等に之を申請するものとす

第八條　本會は左の役員を置く　會長一名　副會長一名　幹事七名　評議員二十名　書記若干名

第九條　會長副會長及幹事評議員は會員の投票を以て之を撰擧し書記は幹事の推撰により會長之を命ず

但書記は都合により會員外の婦人又は男子に托することあるべし

第十條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し又は其代理をなし幹事は會長の命を受けて會務を處理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命に從て諸記録及雜務を掌る

但幹事の分課を設けて第一　會計　第二　編輯出版　第三　庶務とす

第十一條　會長の見込を以て右役員外に會員中より臨時に指名委員を置くことあるべし

第十二條　會長副會長及幹事評議員の任期は一年とす尤も再撰するも妨なし

第十三條　會長副會長及幹事評議員は無給料とし書記は相當の報酬を給す

第十四條　本會の集會は七八月を除くの外毎月一回として通常第一土曜日午後一時より之を開く

第十五條　毎會學識經驗ある者を聘し講義演説を囑し本會々員の演説と共に之を筆記して本會雜誌に掲載し毎月各一冊つゝ無代價にて之を會員に頒付するものとす

但し演説の間に談話を交ゆる事あるべし

第十六條　會員は家族の婦女子又は知己の婦人を本會々場に誘致して傍聽せしむることを得

第十七條　講義演説の際男子の傍聽を禁ず

但し會員に縁故ある男子は此限にあらず

第十八條　本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

但些少の金額は日々の費用支出の爲め事務所に引出置を得

第十九條　會計の收支は總て會計課幹事の捺印を要す

第二十條　會員又は會員外より金圓若くは書籍物品等を寄贈あるときは本會より謝狀を送り且寄贈の品目及其人の姓名を本會雜誌に載せ報告するものとす

第廿一條　會費は郵便小爲替にて東京下谷郵便局へ向け振出しある可し

但不得止場合には郵便劵を代用するも妨けなし尤も一割増とす

第廿二條　入會員には會員證を附與すべきに付郵便にて申込の者は郵便劵二錢を添ふべし

第廿三條　每年三月九月の總會に於て會計の收支庶務の概略幷に會員の增減等を報告す可し且規則改正の案あれは之を議定するものとす尤も議定は總て多數決とし可否半數なるときは會長之を決す

但至急規則の改正を要する事あるときは豫め會員に報して臨時に之を爲すことを得

第廿四條　三月の總會に於て役員の撰擧をなすものとす

第廿五條　規則の範圍内に於て役員の評議を以て細則を設くることを得

第廿六條　各地方にて發起者十人以上ある者は支會を設くることを得

但其規則は本會の規則に抵觸せざる樣起草し本會役員の認可を經へし

第廿七條　本會の集會場は時々報知する者とす

第廿八條　會費金は受領證を付與すべし尤も小爲替又は郵便劵にて納むる者は右受領證遞送費として郵劵二錢を添ふべし然らざれは受領證は送付せざるものとす

東京下谷區練塀町四十三番地
私立　大日本婦人衞生會

齒科診察
午前八時より
午後五時まで
東京日本橋本町二丁目十二番地
齒科醫　高橋コウ

明治二十一年二月二十八日内務省許可

明治三十一年三月十八日印刷
明治三十一年三月二十日發行

發行所　東京下谷區練塀町四十三番地　大日本私立婦人衞生會
編輯兼發行者　東京牛込區矢來町三番地　田中德三郎
印刷者　同　神田區小柳町十三番地　小高良造
印刷所　同　神田旅籠町貳丁目拾一番地　廣業館

明治廿六年四月四日遞信省認可毎月二十日發行

（定價金拾錢）